

いね科青刈

雪印が お奨めする 育成選抜品種の解説

ライ麦(改良種、ペトクーヴ四倍体)

育成の目的

早春の青刈飼料として、繁茂力旺盛な多
収品種を選抜育成し、田畑の裏作に広く栽
培され有効に利用されることを念願した。
また、ライムギは他殖性作物で難ばくな品
種に陥りやすいので、特性維持に注意をは
らっている。

ペトクーザ四倍体はアメリカから導入された倍数体品種であるが、改良種と同様に優良個体を選抜し、更に、多数の系統を造成し優良系統間の多系交配を行なおうとしている。

(2) 刈取 生育の進むにしたがい茎の割合が多くなり且つ硬化してくる。
 (ペトクーザ四倍体は成熟期にいちじるしく硬化する)ので、早期に刈取ること。

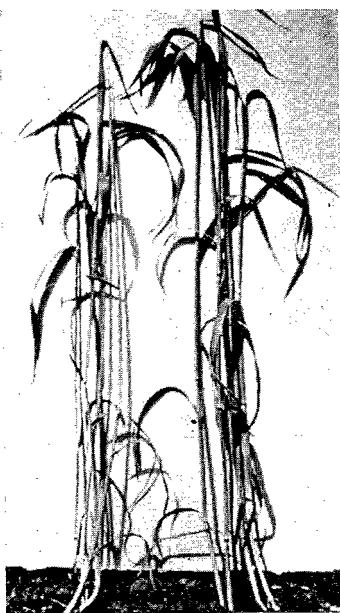
(二) 育成経過 種に陥りやすいので、特性維持に注意をはらっている。

改良種は青刈収量の高いペトクーラー^タ純系一八五をドイツより導入し、優良個体を選抜して改良を図り、年々不良個体の抜取り淘汰をくりかえして純系の維持を行なつている。

(三) 特性概要
ペトクーザ純系一八五(改良種)は多叢型で再生力強く、茎は細く比較的柔かく葉の量も多い。

れば一一一二月に刈取りでき、翌春の収量に殆ど悪影響を及ぼさない。

寶真堂藏書



写真左、在来種、右、四倍体（穗孕期）



(四) 利用上の注意

- (1) 裏作 ライムギは麦類のなかで耐寒性もっとも強く、水田、畑の裏作に用いられるが湿田は不可。耕起多

る。紅色雪腐病等に抵抗性を有してい